厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

アピアランスケアに関する医療者を対象とした実態調査

久慈志保 聖マリアンナ医科大学医学 講師
鈴木 直 聖マリアンナ医科大学産婦人科学 主任教授

がん医療の進歩により、治療を継続しながら社会生活を送る患者が増加しており、治療に伴う外見変化に対するサポートである「アピアランスケア」の重要性が認識されている。治療に伴う外見の変化は、患者にとっては単なる身体症状ではなく、がんを想起させる非常に重要な要因である。「アピアランスケア」とは、単に外見の変化を隠したり、取り繕ったりするものではなく、外見変化に関する悩みを患者が適切にコーピング（対処）することを支援するものである。がん患者が社会とのつながりを維持して、治療を継続するためには、アピアランスケアの貢献が大きい。がん治療医を含む医療従事者は、アピアランスケアが、単にウィッグや化粧を勧めるものではないことを明確に理解し、化学療法による爪障害、手足症候群、痤瘡性皮疹等、並びに放射線療法による皮膚炎等の外見の変化及び苦痛に対する患者支援を積極的に行うことができる体制を整えるべきである。第３期がん対策推進基本計画の中間報告では「外見の変化に関する相談ができた患者の割合」が成人で 28.3%、小児で 51.8%に留まっていた。より多くの医療従事者は AYA 世代がん患者等支援の一環としてアピアランスケアに取り組むべきである。本研究は、日本癌治療学会思春期・若年（AYA)がん診療検討委員会が、2020-2022 年度 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「小児・AYA 世代がん患者に対する長期生殖機能温存に関わる心理支援体制の均てん化および適切な長期検体温存方法の提案に向けた研究（21EA1004)」および「がん患者に対する質の高いアピアランスケアの実装に資する研究(20EA1016)」と共同で日本癌治療学会員を対象として行われるアピアランスケアに関する実態調査である。実態調査については 2022 年 5 月 13 日第 1 回思春期・若年（AYA）がん診療検討委員会において議論が行われ、その後の通信会議を経て 2022 年 12 月には、日本癌治療学会会員を対象として、アピアランスケアに関する実態調査（意識調査）を行った。本研究内容は、第 61 回癌治療学会学術集会　領域横断シンポジウム「癌治療に伴うボディイメージの変化とアピアランスケア」(2023 年 10 月 20 日予定）で報告される。

A．研究目的

アピアランスケアは、がん治療に携わる医療者間でも関心や知識にばらつきがあるのが現状である。そこで日本癌治療学会会員を対象として、アピアランスケアに関する実態調査（意識調査）を行い、アピアランスケアに関する医療者や実践を明らかにするとともに、アピアランスケアに関する啓発をさらに進め、がん患者の更なる QOL 向上を目指す。

B．研究方法

日本癌治療学会会員（16,838 名）を対象に、2022 年 11 月 1 日～12 月 13 日の期間でアンケート調査票を電子メールで送付し、情報を収集した（調査

内容については別紙（アンケート調査票）参照)。本研究は、聖マリアンナ医科大学の倫理委員会で「アピアランスケアに関する医療者を対象とした実態調査」として申請し、承認を得て実施された(承認番号:第5831号)。

C．研究結果

807名からの回答を得た（回答率5%)。アピアランスケアに対する意識調査としては、最大規模のデータを得ることができた。回答者の内訳は、医師・歯科医師693名(86%)、薬剤師65名(8%)、看護師45名（6%）であり、多職種に及ぶデータを収集することができた。「アピアランスケア」という用語については、用語も内容も知っていると回答したのが66.6%であった一方で、用語も内容も知らないと回答したのは19.3%であった。その他、アピアランスケアに対するエビデンスに基づく対処法について複数の質問を行ったが、一部においてはエビデンスに基づいた対応方法が浸透していないという実態も見られた。詳細については解析中である。

D．考察

詳細なデータについては解析中であるが、現時点での解析結果からは「アピアランスケア」の文言や重要性の認識は、年々高まっているものの、大学病院や一般病院においても、いまだ浸透しているとは言い難い。

医療者が「アピアランスケア」をよく知り、実践することができれば、がん治療中あるいは治療後の患者に対して、身体面の向上だけでなく、社会とのつながりを維持し積極的に活動することができる、すなわち社会面、心理面、さらには経済面の向上にも影響を与え、QOL を上昇させる可能性がある。

E．結論

今後も啓発活動を継続させ、アピアランスケアについての患者のニーズに対して適切な対処を可能とする体制を構築する必要がある。

F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G．研究発表

1.　論文発表

データ解析終了後、発表予定

2.　学会発表

第 61 回癌治療学会学術集会　領域横断シンポジウム「癌治療に伴うボディイメージの変化とアピアランスケア」で報告予定（2023年10月20日予定)。

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし